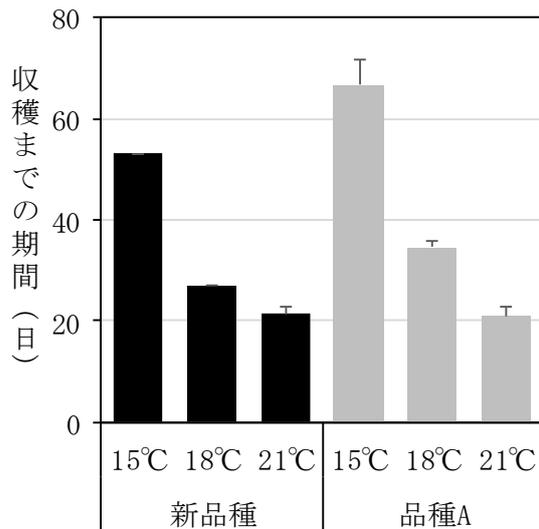


[特用林産物部門 令和2年度 普及する技術]

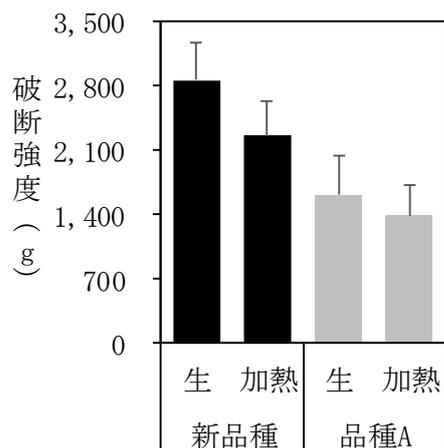
事項名	あらげきくらげ新品種の特性及び栽培法										
ねらい	あらげきくらげは、温暖な地域で栽培が盛んなきのこだが、本県の気候に適し、市販品種よりも低温下での生育が良い品種を作出し、栽培法を確立したので普及に移す。										
普及する内容	<p>1 主な特性</p> <p>(1) あらげきくらげの特性</p> <p>ア 春～秋に栽培可能で夏季生産に適する。</p> <p>イ しいたけと比べ発生操作が単純で選別作業を要しないため栽培が容易である。</p> <p>ウ 栽培には、既存のしいたけ生産施設や農業用ハウスが利用可能である。</p> <p>エ きのこの特性としては、変色しやすいしいたけと比べ日持ちがよい。</p> <p>(2) 新品種の特性</p> <p>ア 低温下での生育が市販品種よりも早い(図1)。 収穫までの期間が、市販品種よりも15℃で約2週間、18℃で約1週間早い。</p> <p>イ きのこの歯ごたえが市販品種よりも強い(図2)。 きのこの破断強度が、市販品種の1.6～1.8倍高い。</p> <p>ウ きのこの色味が市販品種よりも明るい(写真1)。 きのこの表面の色が、市販品種は紫褐色で新品種は褐色。</p> <p>2 栽培法</p> <p>(1) 培地条件は、以下のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="405 1039 1345 1144"> <thead> <tr> <th>培地組成</th> <th>混合割合 (乾燥重量比)</th> <th>含水率 (%)</th> <th>pH</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ナラおが粉：米ぬか：フスマ</td> <td>10：1：1</td> <td>65</td> <td>5.8～6.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 殺菌、冷却、接種は、しいたけ等他のきのこ栽培と同様に行う。</p> <p>(3) 培養条件は、温度20～25℃、湿度65%程度で、1.3kg菌床の場合60日行う。</p> <p>(4) 発生操作は、袋栽培の場合カッターナイフ等で菌床に切込みを入れて行う。</p> <p>(5) 発生時期は、平均気温15℃以上の時期が適する。</p> <p>(6) 散水管理は、きのこの有無にかかわらず1日3回程度の散水を行う(図3)。</p> <p>(7) 通気不足は発生不良やきのこの形態異常を引き起こす原因となるため、換気や扇風機などによる空気循環を行う(写真2)。</p> <p>(8) 菌糸の成長は、35℃以上の高温になると著しく遅くなるため、換気や土間散水などにより栽培施設内の温度管理を行う(図4)。</p>			培地組成	混合割合 (乾燥重量比)	含水率 (%)	pH	ナラおが粉：米ぬか：フスマ	10：1：1	65	5.8～6.3
培地組成	混合割合 (乾燥重量比)	含水率 (%)	pH								
ナラおが粉：米ぬか：フスマ	10：1：1	65	5.8～6.3								
期待される効果	本県に多いしいたけ生産者が、夏季生産用に取り組みやすいきのことして普及が期待できる。										
普及上の注意事項	<p>1 栽培方法は「青森県版アラゲキクラゲ栽培の手引き」(青森林業研HP)を参照する。</p> <p>2 種菌又は菌床の入手については、青森林業研に問い合わせる。</p>										
問い合わせ先(電話番号)	林業研究所 森林資源部 (017-755-3257)	対象地域及び経営体	県下全域のきのこ生産経営体								
発表文献等	平成30年度 青森県産業技術センター林業研究所報告										

【根拠となった主要な試験結果】



- (注) 1 1. 3kg 袋栽培、各 10 菌床による結果。  
 2 収穫までの期間は、発生処理から収穫までの日数。  
 3 湿度 95%以上となるように超音波加湿器による加湿を行い、散水は行っていない。

図 1 栽培温度別の収穫までの期間 (平成 29~30 年 青森林業研)



- (注) 1 テクスチャーアナライザーによる測定結果。  
 2 21°Cで栽培した子実体を使用。子実体収穫後、そのまま(生)又は100°Cで1分間ゆでて(加熱)測定。  
 3 子実体の中心部を、ハサミを用いて幅2cm、長さ4cmに切り出して計測に供試。  
 4 破断強度は、くさび型のプランジャーを用いて、破断させた時の最大荷重。

図 2 きのこの破断強度 (平成 30 年 青森林業研、青森食品総研)



写真 1 きのこの外観 (平成 30 年 青森林業研)

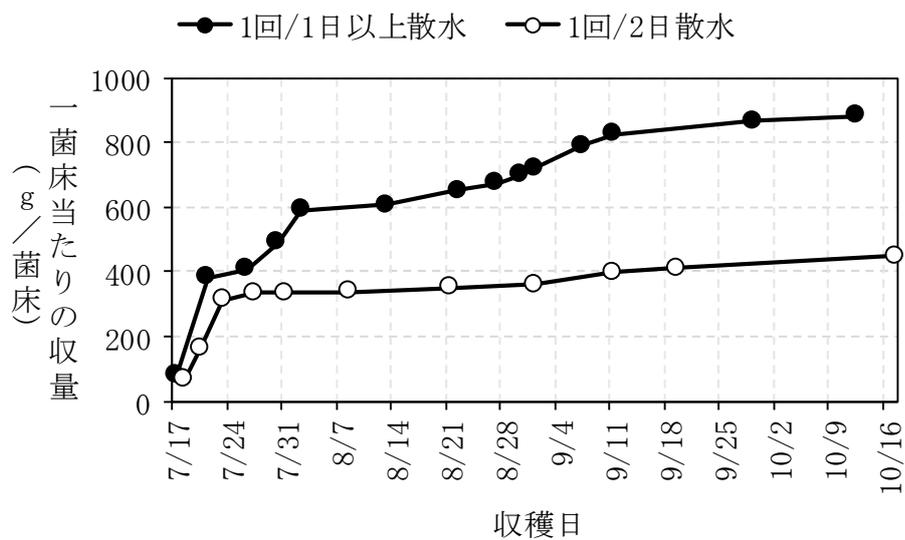


図3 散水頻度が収量に及ぼす影響（令和元年 青森林業研）

- (注) 1 2.5kg 袋栽培による結果。  
 2 試験場所：五戸町、十和田市



写真2 通気不足による形態不良のきのこ（左）、正常なきのこ（右）（令和元年 青森林業研）

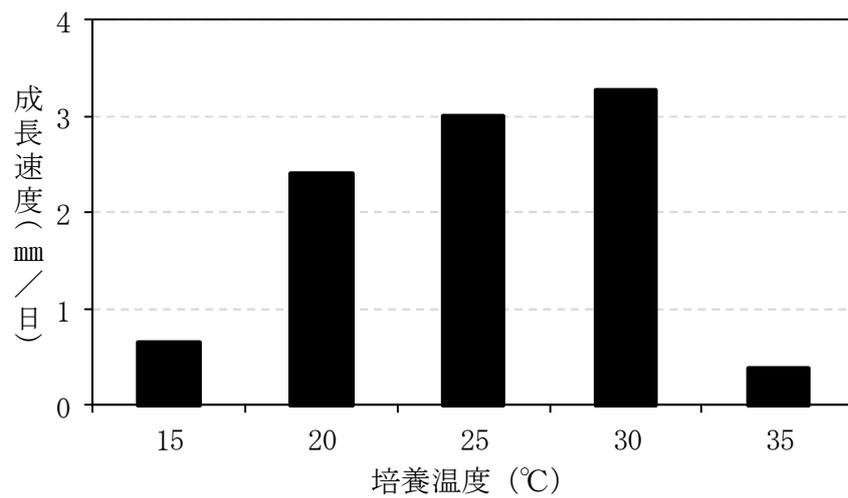


図4 新品種の菌糸成長速度 (平成30年 青森林業研)

- (注) 1 9 cm径シャーレ、ポテトデキストロース寒天培地で菌糸を培養した結果。  
 2 各培養温度につきシャーレ5枚、3反復した平均値。